平成２７年度

教育委員会事務の点検及び評価報告書

（平成２６年度事務事業対象）

平成２７年９月

長門市教育委員会

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

教育委員会の活動状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

　教育委員会の活動状況について　・・・・・・・・・・・・・・・　2

教育委員会事務の点検及び評価制度　・・・・・・・・・・・・・・　5

　1　教育に関する事務の管理及び執行の状況の　・・・・・・・　5
　　点検及び評価の実施について

　2　長門市教育委員会の権限に属する事務の　・・・・・・・・　5
　　管理及び執行の状況の点検及び評価について

　3　点検及び評価の対象事業について　・・・・・・・・・・・　8

　4　有識者の総括的な意見　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

　5　各事務事業の点検及び評価結果　・・・・・・・・・・・・・　１１

はじめに

長門市教育委員会では、約６０年ぶりに改正された教育基本法において、「国の計画を参酌し、地域の実情に応じて計画を策定するよう努めなければならない」とされたことを受け、平成２４年度から５年間の「長門市総合計画・後期基本計画」に連動させた長門市教育振興基本計画を策定しました。

この計画は、現行の学校教育や社会教育の取り組みを再構築し、長門市における教育振興に必要な施策を体系化しています。そして、基本理念を「生涯を通じて自らを磨き・高め、連携して「知」をはぐくむ」とし、教育をめぐる学校・家庭・地域・行政の各主体が「横の連携」を強化し、学校での教育段階はもとより、生涯を通じて自らを磨き、高めていく「縦の接続」を重視することで、合併後の本市の課題であるコミュニティの再生も併せて図っていくものとしています。

また、この計画に基づき、毎年度、教育施策方針を策定し、教育行政を推進しているところです。

一方、平成１９年６月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和３１年法律第１６２号）が一部改正され、平成２０年度からすべての教育委員会は、「毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならない。」こととされました。

そこで、本市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政を推進するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、市教育委員会が実施した平成２６年度事務事業のうち、主要な事務事業を対象に教育委員会自らが点検及び評価を行い、学識経験者等の意見をいただき、報告書としてまとめるものです。

教育委員会の活動状況

教育委員会の活動状況について

（１）教育委員会の開催状況

教育委員会の会議は、原則として毎月１回「定例会」を開催し、必要に応じて臨時会を開催することとしています。

①定例会・・・・・・１２回（原則として毎月第４火曜日）

②臨時会・・・・・・　２回（随時）

（２）教育委員会での審議及び報告

教育委員会の会議では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２１条に定める事務（同法第２６条及び「長門市教育委員会所管事務委任規則」の規定に基づき、教育長に委任された事務を含む。）について、議案審議及び報告等を行いました。

【附議事件等】（平成２６年４月～平成２７年３月）

区 分	内　　容	件数
議 案	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること	２
	規則及び規程の制定または改廃に関すること	１７
	議会の議決を経るべき事件の議案に関すること	８
	学校その他の教育機関の設置又は廃止に関すること	１
	人事に関すること	６
	付属機関等の委員等の委嘱等に関すること	４
	通学区域に関すること	－
	県費負担教職員の任免その他の進退の内申に関すること	１
	その他	３
選 挙	委員長の選挙について	１
指 定	委員長の職務代理者の指定について	１
報 告		２２
協 議		８

教育委員会議の活性化のために、次のことに継続し取り組みました。

①会議録の承認・・・・・教育委員及び事務局職員の共通認識及び発言内容の確認のために、委員会で承認を受ける。

②教育長からの報告・・・各課からの報告のみでなく、教育長から諸会議等の出席に伴う報告及び最新情報の提供を受ける。

③意見交換の実施・・・・市内外での問題をタイムリーに意見交換する。

（３）教育委員の活動

教育委員の各種行事への参加状況は次のとおりです。

①　幼稚園・小中学校計画訪問

月日	学校名	月日	学校名	月日	学校名
10/7	通小学校	10/14	浅田小学校	10/27	深川中学校
6/30	仙崎小学校	5/13	日置小学校	10/21	俵山中学校
11/12	深川小学校	7/9	神田中学校	7/8	三隅中学校
10/21	向陽小学校	10/8	油谷小学校	11/19	日置中学校
7/2	俵山小学校	7/10	向津具小学校	11/14	菱海中学校
5/26	明倫小学校	11/18	仙崎中学校	7/3	宗頭幼稚園

②　研修会等

・山口県都市教育長会議　平成２６年４月１６日

・山口県市教育委員会協議会総会　平成２６年４月１６日

・山口県市町教育委員会委員研修会議　平成２６年４月１６日

・長門市小学校長会自主研修会　平成２６年６月　５日

・長門市中学校長会自主研修会　平成２６年６月１０日

・市町村教育委員会研究協議会　平成２６年１０月１４日～１５日

・中国地区都市教育長会定期総会並びに研究協議会

平成２６年１０月１６日～１７日

・県、市町教育委員会教育長意見交換会

「ともにーティング２０１４」　平成２６年１０月２２日

・山口県市教育委員会協議会研修会　平成２６年１０月２９日

③　式典

・長門市立小学校入学式　平成２６年　４月　８日

・長門市立中学校入学式　平成２６年　４月　８日

・長門市成人式　平成２７年　１月　３日

・長門市立小学校卒業証書授与式　平成２７年　３月２０日

・長門市立中学校卒業証書授与式　平成２７年　３月１２日

教育委員会事務の点検及び評価制度

１　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

平成１８年１２月の教育基本法の改正と平成１９年３月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成１９年６月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律《抜粋》
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２　長門市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

（１）点検及び評価の目的

点検及び評価は、市民に対する行政の説明責任を果たすことによって、教育行政に対する市民の理解と信頼性の向上を図るとともに、今後重点化を図らなければならない分野を明確にすることによって、市民が求める質の高い教育を提供していくことを目的としています。

（２）点検及び評価の対象

①　対象期間

平成２６年度（平成２６年４月１日から平成２７年３月３１日まで）

②　対象事務

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている教育委員会の権限に属する事務（市長部局において補助執行している事務を含む。）及び市長の権限に属する事務のうち教育委員会事務局において補助執行している事務

（３）点検及び評価の実施方法

教育振興基本計画に定める基本理念と基本目標に基づき、具体的かつ総合的に事業を進めるため策定した「平成２６年度長門市教育施策方針」に定める施策に関する事務事業ごとに活動状況を点検し、これを評価する方法により実施しました。

（４）点検及び評価の流れ

事務事業の選定（教育委員会）

⇩

一次評価（教育委員会）　（内部）による評価

⇩

二次評価（有識者）　（外部）による評価

⇩

教育委員会議の協議・議決

⇩

議会への報告書提出及び公表

（５）有識者の知見の活用について

事務事業の点検及び評価の客観性を確保し、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、事務事業の点検及び評価に関する有識者（以下「有識者」という。）を置き、教育委員会が行った事務事業の点検及び評価の結果についてご意見をいただきました。

有識者は次のとおりです。

・岡崎　繁男（元中学校長）
・中野キクエ（元小学校長）
・山本　玲子（書道家）
・早川　　修（前長門市ＰＴＡ連合会副会長）
・荻　　隆宣（元長門市ＰＴＡ連合会副会長）

長門市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価
実施要綱

平成２２年４月１日
教育委員会要綱第４号

（趣旨）

第１条　この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号以下「法」という。）第 26 条第１項の規定により行う教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

（点検及び評価の対象）

第２条　点検及び評価の対象は、長門市教育委員会教育行政施策方針に定められた施策を推進する事務事業のうちから、教育委員会が選択したもの（以下「事務事業」という。）とする。

（点検及び評価の実施）

第３条　教育委員会は、当該事務事業を企画立案し遂行する立場から、毎年度、事業の必要性、効率性、有効性その他の事項を視点として、点検及び評価を行う。

（点検及び評価に関する有識者）

第４条　点検及び評価を行うにあたり、客観性を確保するため、事務事業の点検及び評価に関する有識者（以下「有識者」という。）を置き、教育に関し学識経験を有する者等の知見の活用を図る。

２　有識者は、教育委員会の求めに応じ、点検及び評価について意見を述べるものとする。

３　有識者は５人以内とし、教育に関し学識経験を有する者、教育に関し優れた識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

４　有識者の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠の者の任期は、前任者の残任期間とする。

５　有識者は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

（市議会への報告等）

第５条　点検及び評価の結果は、毎年市議会に報告するものとする。

２　前項の報告の後に、点検及び評価の結果を市民に対し公表するものとする。

（補則）

第６条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

この要綱は、平成 22 年４月１日から施行する

３　点検及び評価の対象事業について

基本理念	基本目標	施策の課題	事務事業	番号
生涯を通じて自らを磨き・高め、連携して「知」をはぐくむ	安全・安心を確保するとともに、質の高い教育環境を整備します	安全・安心な教育を支える環境の整備	学校施設の耐震化事業	1
			油谷小学校改築事業	2
			学校統廃合事業	3
			学校給食センター運営管理事業	4
			通学支援事業	5
		質の高い教育を支える環境の整備	学校教育の情報化事業	6
			長門市学校教育研究大会事業	7
		地域で子どもたちを育てる環境の整備	コミュニティ・スクール推進事業	8
			地域協育ネット事業	9
			家庭教育支援事業	10
	子どもたちの個性を尊重しつつ能力を伸ばし、生きる力を育成します	知識、思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の育成	「確かな学力」育成サポート事業	11
			小中一貫教育の推進事業	12
			研究指定校補助事業	13
			防災教育事業	14
			子ども教育ゆめ基金海外派遣事業	15
		規範意識を養い、豊かな心と健やかな体づくり	教育支援センター事業	16
			いじめ問題に係る教育相談事業	17
		特別なニーズに対応した教育の推進	特別支援教育の充実事業	18
			就学指導委員会事業	19
			夏季教育研修講座事業	20

基本理念	基本目標	施策の課題	事務事業	番号
生涯を通じて自らを磨き・高め、連携して「知」をはぐくむ	社会全体で、生涯学習の理念に基づく取組を推進します	いつでも、どこでも学べる機会の充実	生涯学習の推進事業	－
			成人式開催事業	21
			公民館指定管理事業	22
			図書館の充実事業	23
			婦人団体活動支援事業	24
			青少年健全育成団体支援事業	25
			人権教育講座開設事業	26
			人権教育啓発推進事業	27
			生涯スポーツの推進事業	－
			我がまちのスポーツ推進事業	28
			学校体育施設開放事業	29
			スポーツ教室・健康医学講習会開催事業	30
			長門市体育協会補助金事業	31
		学校・家庭・地域の連携を強化し、学習成果を生かす協働の推進	地域協育ネット事業（再掲）	－
			放課後子ども教室推進事業	32
		次世代への地域文化の継承	文化財の保護・活用事業	33
			地域文化の継承事業	34

４　有識者の総括的な意見

有識者からは、教育委員会が行った事務事業の点検及び評価の結果だけでなく、教育行政全般について、次のとおりご意見をいただきました。

今回の点検及び評価が、教育行政に対する市民の理解と信頼性の向上、質の高い教育を提供するという目的を達成できるよう、今後も改善しながら事務事業を執行していきます。

【報告書について】

・事業概要・予算執行・取組状況等が読み易くまとめてある報告書になっている。

・事業間の連携にふれた評価をしたり、連携をとりあげた事業報告があると、教育委員会の事業に対する熱意が評価者に伝わると考える。どの事業もとても大切な事業だが、常に無駄なものがないかの点検は必要。また継続事業だけではなく、必要な新規事業についても立案してほしいと思う。

・昨今の学校に関する報道や、我が市における統廃合によって、ほとんどの子ども達が中規模校で学校生活を送るようになることを鑑みると、いじめを早期発見するシステムは、常に見直しを図らなければならないのではないかと思われる。その意味では１７，２５，２６，２７の事業は関連性を持って考えなくてはならない。教職員によるチェック、保護者によるチェック、子ども同士によるチェックにプラスして、いじめられている子どもの声を確実に拾い上げることができる第４のチェック機能を、早急に構築する必要があるのではないか。

・時間的な問題もあるが、報告書とその説明、質疑応答を２箇所の現地視察で点検評価することは難しい。

【教育行政について】

・少子高齢化の進むなか、長門の子どもたちを取り巻く環境がかわってきているのではなかろうか。市教委のリーダーシップのもと、小中学生が「ふるさと長門のよさをたくさん言える」教育の推進に期待したい。小学校の学力調査の結果が連続して良くないことが気がかりである。

・『生涯を通じて自らを磨き・高め、連携して「知」をはぐくむ』という理念が共有され、学校・家庭・地域が手を携えて各々の役割を果たすことが出来るように各事業が展開されている。地域協育ネットの広がりに学校・地域・行政の横の連携の成果が顕著に現れているように思う。コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進・充実に期待する。

5　各事務事業の点検及び評価結果

①施策の課題

施策の課題	取　　組　　状　　況	番号
安全・安心な教育を支える環境の整備	長門市学校施設整備計画に基づき、安全で安心な教育環境整備を進めており、校舎の改築、耐震補強工事等の実施により、平成 27 年度末の耐震化率 100%（完了）を目指す。	1-5
質の高い教育を支える環境の整備	平成 23 年度から計画的に整備を進めてきた教務用パソコンについては、平成 25 年度をもって完了した。また、教育研究大会については、学校教育基本方針の定着と教職員が研究交流を推進する場であるが、学校運営協議会及び保護者、市民にも広く呼びかけ、協働意識を高める場ともしたい。	6-7
地域で子どもたちを育てる環境の整備	「地域協育ネット」の推進により、地域総ぐるみで子どもを育てる気運が高まり、地域活性化と地域住民の生きがいづくりにつながっている。また、家庭教育学級の研修・交流により、学級活動の推進を図っている。	8-10
知識、思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の育成	学力向上のため、校種間連携と授業改善等を柱に各校の取組を推進するとともに、有効な手立てを市内全体で共有している。	11-15
規範意識を養い、豊かな心と健やかな体づくり	課題のある子どもたちへの対応や豊かな情操を養う教育活動を展開している。あわせて、自分らしい生き方を実現するための力の育成に努めている。	16-17
特別なニーズに対応した教育の推進	関係機関と連携し専門家等の意見を踏まえ、早期からのよりよい就学に努めている。また、可能な限り通常の学級で支援を要する子どもたちへの対応を行っている。	18-20
いつでも、どこでも学べる機会の充実	人権教育セミナーをはじめ、スポーツ教室の開催など様々な学びの機会を提供するとともに、図書館・公民館事業の充実により、市民の生涯学習の推進を図っている。また、スポーツを普及・指導する団体等を活用し、誰もがスポーツを楽しんだり、学んだりできる環境の整備を行っている。	21-31
学校・家庭・地域の連携を強化し、学習成果を生かす協働の推進	市内小規模小学校において放課後子ども教室を開設し、放課後の子どもの居場所づくりに取り組むとともに、学校・家庭・地域が連携し地域児童の健全育成を推進している。	32
次世代への地域文化の継承	企画展の開催や学校への出前講座などに取り組み、市民や子どもたちの地域文化に対する理解を進めるとともに、文化財の保護や伝承について取り組んでいる。	33-34

②各事務事業

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>1</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">教育総務課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">学校施設の耐震化事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">安全・安心な教育を支える環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">平成 19 年３月に策定した長門市学校施設整備計画（学校施設耐震化推進計画）に基づき、耐震性の低い校舎及び屋内運動場の耐震補強工事を行い、児童生徒の安全かつ安心な学習環境の整備を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>49,533,000 円
（32,523,120 円）
地域の元気交付金事業
15,788,000 円
（11,665,500 円）</td><td>繰越明許予算
13,916,700 円
（13,916,700 円）
現年度予算
403,260,000 円
（401,323,680 円）</td><td colspan="2">399,093,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>６７．６％</td><td>９９．５％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">平成 26 年度においては、明倫小学校、深川中学校校舎棟の耐震補強工事、平成 25 年度からの繰越事業として、三隅中学校特別教室棟設計業務を実施した。
また、非構造部材の耐震化への取り組みとして屋内運動場吊天井落下防止工事実施設計業務、菱海中学校校舎棟外壁及び屋上防水等改修設計業務委託を実施した。
【平成 26 年度事業実績】
①小学校施設耐震化事業（支出額　209,737,951 円）
明倫小学校校舎棟　204,834,960 円
屋内運動場天井落下防止対策事業　4,902,991 円
②中学校施設耐震化事業（支出額　205,502,429 円）
深川中学校校舎棟　185,304,240 円
三隅中学校特別教室棟　14,003,100 円
菱海中学校校舎棟　3,996,000 円
屋内運動場天井落下防止対策事業　2,199,089 円</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	学校施設の耐震化については、学校施設耐震化推進計画を前倒しすることで、Is 値＝0.3 未満の施設から優先的・年次的に耐震化への取組を進めてきたところである。 本市における公立小中学校の耐震化率は、平成 26 年度当初が 79.6%、27 年度が 95.9%と推移し、国の方針である平成 27 年度末には耐震化率 100%を達成する見込みである。 平成 27 年度においては、三隅中学校特別教室棟の改築工事に着手する。 また、非構造部材の耐震化への取り組みとして屋内運動場吊天井落下防止工事、菱海中学校の校舎棟外壁改修工事及び屋上防水等改修工事に着手する。

〔事業名〕　学校施設の耐震化事業

外部評価	・各学校の屋内運動場は、災害の際、ほとんどが指定避難所になっていることを考えても平成 27 年度末耐震化率１００％達成に目処がたったことは高評価に値する。 ・耐震化率１００％に向けて目標どおりに事業が進められているので安心しているが、取りこぼしのないようにお願いしたい。 ・本年度末に予定通り耐震化率１００％達成の見込みとなっており、安全な学習環境が整えられている。

※1　Is 値（構造耐震指標）　・・・　耐震診断により建物の耐震性能を示す指標で、Is 値 0.6 以上で耐震性能を満たすとされていますが、文部科学省は学校では 0.7 以上に補強するように求めています。Is 値 0.3 未満は大規模な地震（一般的に震度 6 強程度）により倒壊の可能性が高い建物とされています。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>2</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">教育総務課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">油谷小学校改築事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">安全・安心な教育を支える環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">油谷小学校の校舎及び屋内運動場は、築後 50 年近くが経過し建物の随所が著しく老朽化している。耐力度も低下し耐震基準を満たしていないため、全面改築を行い、安全・安心な学習環境の整備を図る。
【計画概要】
児童数：130 人
学級数：普通 6 学級（6 学年×1 学級）／ 特別支援 2 学級
面　積：校舎棟（2 階建）　3,197 ㎡
屋内運動場　986 ㎡
平成 25 年度から順次工事に着手し、十分な耐震性を有する安全で安心な学校として、また、市有林材を活用した木質化に積極的に取り組む等、地域に開かれた環境にやさしい学校として整備を進めていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>371,006,000 円
(366,892,404 円)</td><td>繰越明許予算
3,169,866 円
(3,169,866 円)
現年度予算
981,291,000 円
(980,680,628 円)</td><td colspan="2">86,594,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９８．９％</td><td>９９．９％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　■目標どおり　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">平成 25 年 9 月から校舎棟及び屋内運動場・プール建築工事に着手し、平成 26 年 9 月 17 日に完成。同年 10 月 6 日に「授業始め式」を行い校舎等の使用を開始した。その後、旧校舎の解体、グラウンド整備工事等に順次着手した。
【平成 26 年度事業実績／25～26 年度債務負担行為設定分】
支出額　契約額
校舎等整備工事　853,185,780 円（1,123,474,680 円）
工事監理等業務委託　19,327,237 円（　43,039,626 円）
【平成 26 年度事業実績／26～27 年度債務負担行為設定分】
支出額　契約額
グラウンド整備工事等　3,632,400 円（71,085,600 円）
工事監理業務　0 円（　788,400 円）
【現年度分】　支出額
多目的ルーム床材料購入(繰越)　3,169,866 円
既存施設解体工事等　90,269,050 円
開発行為確定測量業務委託　983,880 円
新校舎建設に伴う物品整備（備品・消耗品等）　9,184,672 円
手数料（建築完了検査、引越作業、廃棄物運搬等）　3,328,116 円
移転等補償費（給水負担金、電柱移転）　769,493 円</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	事業最終年度の今年度はグラウンド整備工事、体育倉庫・屋外トイレ建築工事等を実施する。学校、施工業者、教育委員会の三者で連絡調整を密に実施し、常に児童の安全確保に努めるとともに、授業や主要な学校行事に支障が生じることのないよう最大限配慮しながら、平成２７年８月中旬の竣工に向けて、徹底した工程等管理に努めていく。

〔 事 業 名 〕　油谷小学校改築事業

外　部　評　価	・かしこくたくましい油谷っ子の育成に、新校舎でしっかり取り組んでいただきたい。 ・統廃合後の改築事業は計画通りで評価できる。 ・児童の安全を第一に考え、工期優先よりも質の高い工事を目指してほしい。 ・予定通りに改築が進められ校舎の使用も無事に開始されているものは、今後も児童の安全を担保し事業を完了していただきたい。 ・８月中旬の竣工に向けて整備が進められてきた。地域に開かれた学校施設での先進的取組を期待している。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>3</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">教育総務課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">学校統廃合事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">安全・安心な教育を支える環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">学校の小規模化は、児童生徒の学校における人間関係の固定化、クラブ活動や学校行事等における多様な選択の制限等、教育環境として支障が生じることが想定されるため、平成 19 年 2 月策定の「長門市立小中学校適正配置方針」に基づき、統廃合により適正な教育環境が提供できる一定の学校規模の確保を図る。
※俵山中学校の深川中学校への統合</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>0 円
(0 円)</td><td>0 円
(0 円)</td><td colspan="2">7,797,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　□目標どおり　　■目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">【H26 年度実績】
統廃合の時期を平成 27 年 4 月と示し、「俵山地区学校等のあり方検討委員会」や保護者との意見交換会等において継続して地元協議を行う中で、平成 28 年 4 月の統廃合について地元からの承諾が得られた。
また、引き続いて関係校による交流事業（合同授業）を実施し、保護者においても主体的に交流会が開催され情報交換等が行われた。
4/25　俵山中学校の統廃合に係る保護者との意見交換会
6/16　俵山中・深川中合同授業、部活動参加・見学（１、２年生）
7/18　俵山地区学校等のあり方検討委員会（平成 28 年 4 月の統廃合に向け協議を進める方針を決定）
11/15　深川・俵山地区小中学校ＰＴＡ交流会
11/17　スポーツレクリエーション交流学習（深川中１年生）
11/29　俵山中学校の統廃合に係る意見交換会（保護者対象）
12/11　交流授業（深川、向陽、俵山小の５、６年生）
1/15　俵山中学校の統廃合に係る地域からの回答
2/1　深川中学校立志式を見学（俵山中１年生）
2/18　俵山中学校の統廃合に係る協議会（保護者会役員対象）
3/30　俵山中学校の統廃合に係る交流事業等の説明会（保護者対象）
※平成 26 年度で深川中学校耐震補強工事完了</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	教育委員会としては、市内全体の学習環境のバランス、学齢に応じた子どもの学びの可能性や、自主性を育む適正規模の学習環境の必要性を重視し、これまで過小規模校の統廃合に取り組んできた。 俵山中学校については、平成 28 年 4 月の統廃合の承諾が得られたことから、平成 27 年度に統廃合に係る関係予算を計上した。今後は、地元で閉校事業実行委員会の組織を立ち上げていただくとともに、円滑な統廃合に向けて、制服等の購入準備やスクールバスの運行に関する具体的協議を行う。また、平成 25 年度から実施している交流事業の頻度を高めて、子どもたちの不安解消を図るとともに、俵山湯の家に対する支援の具体的な協議を行っていく。

〔事業名〕　学校統廃合事業

外部評価	・統廃合後のケアにも十分な配慮をお願いする。 ・旧文洋小、旧川尻小、旧向津小校舎、旧通中、今後、俵山中が活用されないままの校舎の活用及び管理について検討されたい。 ・俵山中学校と深川中学校の平成 28 年 4 月統廃合が決定し、各校関係者の取り組むべき課題が見えてきた中で、円滑な統合が実現するよう努力してほしい。 ・教育委員会としては統廃合に事業に取り組まなくてはならない立場であろうが、長門の未来のために建設的な発想による事業転換ができないのだろうか。 ・統廃合を承諾された地域住民と保護者の思いを受け止めて生徒のスムーズな就学及び俵山湯の家への支援を図るとともにきめ細やかな配慮をしていただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>4</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">教育総務課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">学校給食センター運営管理事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">安全・安心な教育を支える環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">長門市学校給食運営方針に基づき、平成 22 年 9 月に開設した長門市学校給食センターを中心に、学校給食の衛生管理の向上と高質で安全・安心な給食の提供を図る。
また、将来的な本市の学校給食施設の 1 センター化を検討する中で、段階的にその取組を進めていく。
【施　設】　長門市学校給食センター（2,380 食／日）　対象：15 校
※配送業務直営
日置学校給食センター　（290 食／日）　対象： 2 校
【会議等】　学校給食運営委員会（長門市センター2 回、日置 1 回）、
献立作成委員会（11 回）、物資選定委員会（1 回）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>207,134,000 円
(203,030,098 円)</td><td>208,654,000 円
(204,629,361 円)</td><td colspan="2">208,223,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９８．０％</td><td>９８．１％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">【26 年度実績】
・給食数　長門市学校給食センター　2,380 食（H25 2,100 食）
日置学校給食センター　290 食（H25　300 食）

・平均給食日数　190 日
・給食費　現行、小学校 255 円、中学校 290 円
・事業
ア　食物アレルギーへの対応
①　除去食・代替食　長門市学校給食センター　51 人
日置学校給食センター　14 人
②　学校における食物アレルギー対応マニュアルを改訂
イ　食に関する指導目標の推進
2 名の栄養教諭と 1 名の学校栄養職員で 17 校を担当
ウ　地産地消の推進
人参、ジャガイモ、玉ねぎ、キャベツの 4 品
地産地消率　県内産／76%、市内産／35%
エ　施設見学会、試食会の開催　見学会 5 回 124 人
オ　ながと食の日（毎月 1 回実施）
カ　長門市と下関市で「学校給食・くじら交流の日」を実施　H27.2.3</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	児童生徒の減少等に伴う給食事業の効率的、効果的な運営を図るため、学校給食施設の１センター化に向けて、深川中学校の給食調理場を平成 25 年度末で閉じ、平成 26 年 4 月長門市学校給食センターに統合した。 長門市学校給食センターでは、統合により、食数は増えたが、シミュレーションや検証を行うことで大きなトラブルもなく給食を提供することができた。今後、更なる衛生管理の徹底と作業効率を維持していくため、職員の業務意識の向上を図るとともに、創意工夫と日々の課題整理により安全で安心な給食の提供に努めていく。 また、地産地消への取組は、収穫率の低い作物（ジャガイモ、人参）や新たな品種の作付面積の拡大に取り組む等、関係機関（県農林事務所・市農林課・ＪＡ長門大津・生産団体等）との連携により、栽培奨励に努めるとともに地場産食材の使用量増加を図る。

〔 事 業 名 〕　学校給食センター運営管理事業

外　部　評　価	・地産地消の推進はすばらしい。これからも継続してほしい。 ・多様な事業への取り組みは、年々レベルアップしているように思える。地場産食材の使用は予算との兼ね合いもあろうが、食育の面からもさらなる増加をお願いしたい。 ・子どもたちが楽しみにしている給食提供を無事故で運営されていることに関係者の安全意識の高さがうかがえる。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>5</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">教育総務課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">通学支援事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">安全・安心な教育を支える環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">スクールバスを運行（旅客自動車運送事業所に委託し実施）し、学校統廃合により廃校となった小中学校の児童生徒の遠距離通学に係る条件緩和と登下校時の安全確保を図る。
また、小学生については概ね４km 以上、中学生については概ね６km 以上通学距離のある児童生徒に対し、通学に要する費用等を補助し、自転車通学が認められている児童生徒については、ヘルメット購入費を補助する等の支援を行い、通学条件の緩和と保護者の負担軽減を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>37,648,645 円
(36,617,586 円)</td><td>39,354,205 円
(37,497,397 円)</td><td colspan="2">39,988,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９７．３％</td><td>９５．３％</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">【H26 年度実績】
①スクールバス運行事業　　※事業費 35,497,279 円
上記事業費のうち、運行管理業務委託料（2 社）は 29,743,200 円
青海島地区～仙崎小 29 人・仙崎中 11 人　　運行台数 2 台
真木・渋木地区～深川小 16 人・深川中 6 人　　運行台数 2 台
油谷各地区～油谷小 62 人・菱海中 38 人　　運行台数 4 台
保護者、学校、受託業者、教育委員会の４者で定期的に運行協議会を開催し情報交換を行うことで、児童生徒の安全安心な移送を図っている。

②その他通学支援　　※事業費 2,000,118 円
児童通学費等補助　　1,797,118 円（交付対象 47 人）
自転車通学児童用ヘルメット購入費補助　　0 円（〃 0 人）
生徒通学費等補助　　74,000 円（〃 3 人）
自転車通学生徒用ヘルメット購入費補助　129,000 円（〃 86 人）</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	スクールバス運行管理業務については、業務価格の抑制及び地域雇用の安定確保という観点から、また、子ども達の安全・安心な移送のためには業者が度々替わるのは好ましくないとの保護者からの意見もあったことから、平成 25 年度から３年間の長期継続契約とした。 通学支援に係る補助は、地区によって基準等に差異があるが、旧市町において行われた学校統廃合の条件をもとに定められたものであるため、市町合併時にそのまま新市に引き継がれたという経緯があることから、通学費等補助及びスクールバスの利用による通学支援の対象となる基準等の統一に向けた補助率や対象距離等の課題について、児童生徒の通学事情を十分踏まえ、今後も引き続き慎重に検討していく。

〔 事 業 名 〕　通学支援事業

外　部　評　価	・統廃合時の条件を充分配慮しながらも、他地区との不公平感がなくなるように進めて欲しい。 ・運行協議会での意見や情報をベースに地区に応じた環境を整備されているので、引き続き細かな対応をお願いしたい。 ・義務教育における通学支援は統廃合時条件の壁をクリアして市内全域平等となるよう努めていただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>6</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">教育総務課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">学校教育の情報化事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">質の高い教育を支える環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">小中学校の情報教育用パソコンを計画的に更新し、情報教育環境を充実させることにより、情報教育の向上と円滑な推進を図り、児童生徒の情報活用能力を育成する。
また、各学校のコンピューター室における教育用パソコンの台数については、児童生徒一人につき１台が整備済であり、教職員の校務用パソコンについても教職員一人につき１台の整備を平成 25 年度に完了した。
パソコンについて、リース方式により概ね５年毎に機器の更新を行いながら、電子黒板などの周辺機器の整備も推進していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>25,056,000 円
(25,054,134 円)</td><td>29,383,000 円
(29,381,505 円)</td><td colspan="2">30,381,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９９．９％</td><td>９９．９％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　■目標どおり　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">【26 年度実績】
・教育用パソコン（更新）
通小学校（15 台）、仙崎小学校（31 台）、向陽小学校（21 台）、
油谷小学校（31 台）※各校教師用パソコン含む

・シート型電子黒板（新規）
俵山小学校（1 台）、明倫小学校（1 台）、日置小学校（1 台）</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	平成 27 年度においては、小学校２校の教育用パソコンの更新を行うこととしている。 今後については、国が定めた「教育の情報化ビジョン」への対応に向け、既存機器の計画的な更新、電子黒板の更なる配置や無線ＬＡＮ環境の整備を行うとともに、他自治体の教育現場におけるＩＣＴ環境整備の動向を注視しながら、タブレット型情報端末の導入に向けた検討を行っていく。

〔事業名〕　学校教育の情報化事業

外部評価	・新しい時代に対応したＩＣＴ教育推進に継続して取り組んでいただきたい。 ・各校の無線 LAN 環境整備はどの程度進んでいるのだろうか？万全なセキュリティ対策が望まれる。 ・個人情報の管理などセキュリティに十分留意して、端末の特性に応じた導入を検討していただきたい。 ・「教育の情報化ビジョン」への対応を計画的に進めるとともに現場での効果的な活用に力点を注いでいただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>7</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">長門市学校教育研究大会事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">質の高い教育を支える環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">市内全小中学校教職員が研究交流するとともに、「開かれた学校づくり」、「生涯学習のまちづくり」の観点から、保護者や市民にも公開する研究大会を開催する。
具体的には、個別課題による研究物の展示、各中学校ブロック（通・仙崎、深川、俵山、三隅、日置、油谷）における取組を共有するとともに、本市が目指す「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を推進するための研修を実施する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成25年度</td><td>平成26年度</td><td colspan="2">平成27年度</td></tr>
<tr><td>309,000円
(285,169円)</td><td>304,000円
(294,814円)</td><td colspan="2">311,000円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９２．３％</td><td>９７．０％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">学校（小・中学校間を含む）と家庭・地域が協働した学校運営を充実させるために、コミュニティ・スクール※1推進事業によって学校運営協議会委員を中心とした熟議研修を積み重ねてきたが、小中連携の強化と教職員の学校運営協議会※2への参画が課題であった。
そこで、今年度はみすゞ学園※3を単位としたテーマについて、教職員・保護者・地域代表による熟議を行い、その他の教員は熟議を参観する研修を実施した。
各みすゞ学園が抱える課題をテーマにしたことから、熟議後の具体的な実践が期待できるものとなった。参観した教職員の評価も高く、学校運営協議会の有効性と運営方法についての理解も深まった。
・市内各小中学校から出品展示作品　　３５作品
・代表生徒発表：防災教育研修視察、海外派遣
・指導者　生涯学習・社会システム研究者　三浦清一郎</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」の理念が共有され、教職員の理解も深まった。今後は、本来の目的である、各みすゞ学園のより主体的な課題解決や地域の特色を生かした教育活動の深化・充実に資する会の運営に重点を置く。 学校運営協議会委員等にも更に呼びかけ、協働意識を高める場としたい。

〔事業名〕　長門市学校教育研究大会事業

外部評価	・長門コミュニティにおける教職員という高い自覚と責任をもたせていただきたい。 ・みすゞ学園と小中一貫教育を目指す取り組み内容が市民にわかるように周知を図ることが必要である。 ・コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の理念は素晴らしいので、地域の方々にも浸透するような取り組みができるとよいと思う。 ・学校運営協議会委員の負担が増えるが、コミュニティ・スクールの必要性を更に訴え、次の段階に進めるように取り組みを早めていただきたい。 ・小中一貫教育の理念が教職員間で共有されたことは意義深い。今後の各みすゞ学園での教育実践に期待する。

※１　コミュニティ・スクール　　学校運営協議会を設置した学校。家庭・地域が学校の教育目標を共有しながら、共に学校を創る（共創）「地域と共にある学校」づくりを推進する。長門市では全ての学校がコミュニティ･スクールとなっている。

※２　学校運営協議会　　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４７条の５に規定される組織で、指定する学校の運営に関して協議する機関。

※３　みすゞ学園　　地域の特性や子どもの実態を踏まえながら、市内６つの中学校区ごとに、共通の目標を設定し、小中学校９年間の一貫した教育を推進する枠組み（構想）。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>８</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">コミュニティ・スクール推進事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">地域で子どもたちを育てる環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">市内 17 小中学校全てに設置している学校運営協議会の目的は、学校と保護者・地域が一体となって「より質の高い学校づくり」と「安心安全で児童生徒がよりよく成長できる学校づくり」めざすことである。
研修を通して運営協議会委員のより資質の向上を図ることで、より質の高い学校づくりを目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td colspan="2">平成 26 年度</td><td>平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>586,000 円
(398,653 円)</td><td colspan="2">693,000 円
(489,307 円)</td><td>316,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>６８．０％</td><td colspan="2">７０．６％</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">学校・家庭・地域で核となる人材の資質向上を目的とした「学校運営協議会委員研修会」を開催した。
○期日　平成２７年２月２４日（火）　○会場　長門市立深川小学校
○内　容
・事例発表　「深川の子どもの豊かな学びを創造する学校運営協議会」
発表者　教頭　金嶋淳浩
・講演及び指導講話
演　題　「地域総がかりで子どもを育てる仕組みづくり」
講　師　NPO 法人スクール・アドバイス・ネットワーク
理事長　生重幸恵
・事例発表「浅江小学校コミュニティ・スクールにおけるコーディネーターの役割」光市立浅江小学校校外コーディネーター
金子功一
・グループワーク「地域総がかりで子どもを育てる仕組みづくり」
市内各校の学校運営協議会委員７２名の参加があった。
本市の特色である公民館との連携をいかした仕組みやリアル熟議によって地域の人たちや教職員が思いを共有しながら当事者意識を持って取り組んでいく仕組の有効性が再認識できた。
グループワークにおいても、活発な情報交換や意見交換がされた。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	市内全小中学校 17 校をコミュニティ・スクールに指定し４年目を迎えた今、基盤形成期から定着期への移行を考えると、学校運営協議会での協議内容を学校教育の実働化へどうつなげていくかがポイントとなる。各みすゞ学園の取組状況を把握しながら、特に有効であると思われるみすゞ学園や学校の取組や工夫等を、積極的に他のみすゞ学園に情報提供していく。また、研修会を通して、学校運営協議会委員の資質向上を引き続き図っていきたい。

〔事業名〕　コミュニティ・スクール推進事業

外部評価	・コミュニティ・スクールの質の深化が問われていると思う。遅れてスタートした他市に負けないでほしいと願う。 ・学校運営協議会委員研修会が参加者７２名で行われたのは高評価。 ・研修会は大事だが、それぞれの学校運営協議会の具体的な動きがみえないので、そこに繋がるような仕掛けを作っていただきたい。 ・研修会の参加者が増え、講演やグループワーク等を通して地域ぐるみで子どもたちを育てようとする意識向上が図られている。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>9</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">地域協育ネット事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">地域で子どもたちを育てる環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">公民館を中心とした地域の多様な教育資源を教育現場で積極的に生かすため、社会教育団体等が行う地域活動への参加を通して子どもたちの体験活動を充実させている。
中学校区を一まとまりとした、地域ぐるみで子どもを育む仕組みづくりを推進する。

【目標】地域総ぐるみで子どもを育てることで、子どもたちの「生きる力」を育むとともに、地域住民の生きがいづくりにつなげる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>245,200 円
（　239,728 円）</td><td>158,000 円
（　148,101 円）</td><td colspan="2">211,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９７．８％</td><td>９３．７％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">指定協力校区（深川中学校区・俵山中学校区・菱海中学校区）において、公民館型の地域協育ネットにより、校内・校外支援を行い、学校･家庭･地域が連携した活動に取り組まれており、地域総ぐるみで子どもを育てる気運が高まり、地域の活性化にもつながっている。
特に中央公民館においては、わくわく土曜塾等の地域協育ネットの取り組みが評価され、文部科学大臣賞を受賞している。

○指定協力校区　　学校等を拠点とした教育支援活動実績
深川中学校区　　延べ　94 日
俵山中学校区　　延べ　57 日
菱海中学校区　　延べ 133 日</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	指定協力校区での実践を参考に、公民館職員がコーディネーターとなる公民館型の地域協育ネットを、市内各中学校区において引き続き取り組む。 また、各公民館において地域内の人材バンクを整理し、それぞれが連携できるよう取り組む。

〔事業名〕　地域協育ネット事業

外部評価	・朝、あいさつができない子どもが増えてきているのではなかろうか。地域ぐるみの教育は古くて新しいテーマである。 ・「わくわく土曜塾」の取り組みは素晴らしい。予算がなく規模が縮小したりすることがないように取り組んでほしい。 ・各校区で活動に差が出るように思えるので、校区間交流会等を開催し意識を高めることが必要だと思う。特に若い世代を取り込むことが重要で、彼らを中心に物事を進め、考えることで飛躍的に活発な環境を整えることができる。そこの補助がほしい。 ・公民館型地域協育ネットの取組みによって地域の指導者が子どもたちに関わられることが日常化しておりありがたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１０</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">家庭教育支援事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">地域で子どもたちを育てる環境の整備</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">小・中学校及び保育園、幼稚園に家庭教育学級を開設し、学級運営に役立つ研修会や意見交換会の実施及び幼児期の学習支援、相談事業を実施している。

【目標】家庭の教育機能の向上と幼児・児童・生徒の健全育成</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>474,800 円
（　414,740 円）</td><td>539,000 円
（　427,760 円）</td><td colspan="2">539,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>８７．４％</td><td>７９．４％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価

（取組状況
及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">各家庭教育学級では、学級生の確保や講座の内容について苦労されながらも、市の補助基準に沿って確実に実施されているところである。
（小学校 11 校、中学校 6 校、幼稚園 2 園、保育園 1 園　実施）
意見交換会や合同研修会など家庭教育学級生の学習会を開催したことにより、学級の運営について理解が深まり、工夫された運営につながった。
また、家庭教育学級の活動を理解していただくために、就学時健診時に家庭教育アドバイザー有資格者による説明会を、平成 26 年度より実施している。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	毎年、交付申請等一連の手続きに学校の家庭教育担当者が苦慮されており、できるだけわかりやすい申請書や作成指導に努めていく。 幼稚園及び保育園における学級開設に向け、園長会議に参加し説明を行い、活動を支援する。 質の高い学級運営をしていただくために、必要に応じて個別指導や学級が運営する行事に家庭教育担当の社会教育指導員が積極的に参加し、学級（学校）との良好な関係を築く。

〔事業名〕　家庭教育支援事業

外部評価	・学校就学前の子育て支援は非常に大切である。これからの長門市の盛衰を左右するといえる事業なので幅広く連携して取り組んでいただきたい。 ・家庭教育学級の取り組みは、すでに長期に渡っているはずだが、その内容を充分に点検する時期にあるのではないか。保護者同士の交流だけでなく、今、家庭教育に何が求められているのかを提示し、それを各家庭教育学級で点検することも必要。 ・時間や経済的精神的余裕のない保護者であればあるほど必要な事業であると思う。気軽に参加できるような学級づくりができないものだろうか。 ・就学時健診時の家庭教育アドバイザーや家庭教育学級長の説明はタイムリーでよい。保育園での家庭教育学級開設を期待する。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１１</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">「確かな学力」育成サポート事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">知識、思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の育成</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">児童生徒の学力向上に向け、より質の高い授業を提供することは、教員にとって最も重要なことであり、そのための研修視察や研究会参加を通して研修を深めることは大変効果的である。
市内全小中学校にこのような研修の機会を保障し、研修後授業を通して還元することにより、児童生徒の学力向上・定着を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>1,390,000 円
(1,041,288 円)</td><td>1,400,000 円
(1,064,468 円)</td><td colspan="2">914,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>７４．９％</td><td>７６．０％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">市内全小中学校から１名ずつ計１７名が、学力向上に向けた研修視察を行い、各校の児童生徒の課題解決に向けた授業づくりを行っている。
視察先　・筑波大学付属小学校　・福井県福井市立光陽中学校
・福井県越前市立吉野小学校　・石川県羽咋市立智邑知中学校
・国語教育研究大会（横浜）　・岐阜大学教育学部附属小学校
・和歌山大学教育学部附属小学校　他
視察を行った教員は、所属校の校内研修で報告をしたり、授業公開を行い校内研修で広めたりしながら還元方策を行った。
また、学力向上プラン検討会では各校の教員が参加し、研修を深めながら自校の授業づくりの改善に役立てている。
○１回目（５月１６日）
演　題：「高水準を保ち続ける福井県における学力向上の取組について」
指導者：福井県教育庁義務教育課
参事　水　谷　善　長
○２回目（１２月２５日）
市内全小中学校から、教務主任や研修主任の教員が参加し、
各校の取組状況を発表したり協議したりした。
平成２６年度末には、各校の授業実践をまとめた「長門市先進校視察をもとにした授業改善実践事例集」を作成し、市内全体で実践を共有した。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	○　研修視察については、各校の求めに応じて視察先を決定していたが、より市が求める学力向上にかかわる研修を進める必要がある。また、研修視察で得た知識や情報については、みすゞ学園ごとに広めるなど、還元方法について改善していきたい。 ○　学力向上プラン検討会では、管理職も含め、各校のプランの検討が行われるように内容を設定することが必要である。

〔事業名〕　「確かな学力」育成サポート事業

外部評価	・小学校で低学力の状態が継続している。事業単独では解決できない知恵が求められているのではなかろうか。 ・若くてパワーあふれる人材確保を切に望む。 ・「確かな学力」を育成するには、何らかの方法で「学ぶ意欲」を喚起することが必要だと感じる。 ・数値目標などがあれば分かりやすいが、具体的効果が見えにくい事業である。学力向上は長門市民にとって最重要課題の一つなので、もっと予算をかけても良いのではないか。 ・市が求める学力向上にかかる研修と学校現場で行われている研修をすり合わせ、より質の高い授業の在り方を追究していただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１２</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">小中一貫教育の推進事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">知識、思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の育成</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">各中学校区ごとの連携推進を図るための研究に対する支援を行うことは、みすゞ学園内の研修をより深めるためには必須である。
長門市教育研究大会においては、各みすゞ学園の実践例や成果を発表することとしている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>事業番号８「長門市教育研究大会事業費」の中において計上</td><td>事業番号８「長門市教育研究大会事業費」の中において計上</td><td colspan="2">事業番号８「長門市教育研究大会事業費」の中において計上</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">市内６中学校ごとに連携推進を図る目的として、
①　小中９年間を見通したカリキュラムの作成
②　小学校教員による中学校での職場体験活動、授業（ＴＴ※1）
③　中学校教員による小学校での出前授業
④　小学校児童による交流活動（小小連携※2）
⑤　みすゞ学園要覧の作成
⑥　各種研修会の合同参加等
の実施をしている。
みすゞ学園ごとに、「みすゞ学園要覧」を作成しており、その普及を図る目的で長門市教育委員会のホームページに掲載している。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	○　年次ごとに「みすゞ学園要覧」の修正を行うとともに、その内容については、各みすゞ学園による話し合いを通して推進していきたい。 ○　平成２８年度末を目途に、現在、各みすゞ学園で小中一貫カリキュラムを作成しているが、管理職・教職員の理解や意識に温度差がある。そのねらいを共有させる手だてをとりたい。 ○　小中合同の学校運営協議会を開催し、地域ぐるみの小中一貫教育を目指したい。

〔事業名〕　小中一貫教育の推進事業

外部評価	・中学校のリーダーシップのもと、研究の充実・深化に期待する。 ・一貫教育には中学校生徒が小学校へ出向き直接交流できるシステムを考えることが必要だと思う。 ・地域ぐるみの小中一貫教育を目指すのは結構なことだが、小中合同の学校運営協議会の開催だけでは難しい。固定化されたメンバーだけでなく毛色の変わった方に参加してもらうことで刺激を与えた方が良い。 ・９年間を見通した一貫カリキュラム作成に全力を注いでいただきたい。一貫カリキュラムのよさを教職員が実感できる分野からの早期実践に期待する。

※１　ＴＴ　・・・　ティーム・ティーチングの略。複数の教員による授業。

※２　小小連携　・・・　小学校間の連携。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１３</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">研究指定校補助事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">知識、思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の育成</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">各学校からの応募申請に基づき、本市教育推進にふさわしい研究に対して、研究指定を行う。
コミュニティ・スクール、学力向上、みすゞ教育（心の教育）、特別支援教育を視野に入れた研究課題を設定し、全ての領域において研究及び実践を推進し、その成果を本市小・中学校に広める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>800,000 円
(800,000 円)</td><td>800,000 円
(800,000 円)</td><td colspan="2">800,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>１００.０％</td><td>１００.０％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">■目標を上回る　　□目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">平成 26 年度：8 校を指定（各校 100,000 円）
(1) 学力向上
①通小：「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ児童の育成」～伝え合う力を育てるための、言語活動を中心とした取組（２年次）
②向陽小：「わかる喜び、学ぶ楽しさを実感し、主体的に取組む児童の育成」～教えて考えさせる授業づくりを通して～
③明倫小：『『わかる』『できる』喜びを実感し、主体的に学ぶ児童の育成
④神田小：「複式学級における学力向上のための指導方法の工夫・改善」
⑤向津具小：「基礎基本の習得・授業改善・コミュニケーション能力の育成を機軸にした確かな学力の向上」
(2) みすゞ教育
①深川中：「自らの生き方を考え、主体的に学ぼうとする生徒の育成」～「確かな学力」を育む教育活動の実践を通して～
②三隅中：「豊かな心で主体的に学ぶ生徒の育成」～授業や様々な体験活動において心を揺さぶる場の設定を通して～
(3) 特別支援教育
①深川小：「特別支援教育の視点を活かした【わかる・できる】授業づくりの研究」
指定校においては、研究主題を掲げた計画的実践が行われ、各学校の課題に応じた研修が行われた。その成果として、学力向上やみすゞ教育等各領域の推進につながった。取組についての成果還元方策として、指定校の成果物である研究集録を市内各校に配付した。また、指定校によっては、公開研究会を開催し、参加者に成果を普及する取組がみられた。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	全ての領域において研究が行われた。 各校の課題や児童生徒の実現状況を見極めながら、その研究課題に即した領域や予算額等を設定していく必要がある。

〔事業名〕　研究指定校補助事業

外部評価	・切実な課題解決意識のもと他校の参考となる研修が今後も行われることを期待する。コミュニティ・スクール領域の応募にも期待したい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１４</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">防災教育事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">知識、思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の育成</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">市内各中学校から代表生徒（中学２年生）を募り、夏季休業中の３日間で被災地視察や防災訓練参加等を行う。
参加した中学生は、所属校で報告したり、近隣の小学校等で体験したことを話したりしながら、災害に強い町づくりに貢献する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>2,054,000 円
(1,536,481 円)</td><td>1,955,000 円
(1,616,299 円)</td><td colspan="2">1,543,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>７４．８％</td><td>８２．７％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">○実施日　平成 26 年 8 月 6 日（水）～8 月 8 日（金）
○参加者　市内各中学校から中学２年生 12 名、中学校教員 3 名
防災危機管理課 1 名、学校教育課 1 名　【計 17 名】
○研修内容
（１日目）南三陸町立歌津中学校での防災訓練参加、語り部聴講
（２日目）被災地視察、被災地でのボランティア参加、熟議
（３日目）被災地視察
本事業は、平成２４年度からスタートした。３回目の訪問であった今年度は、被災地視察やボランティア等での研修から、「自分たちでできる防災への取組」について考え、地元の人に伝えることをコンセプトに実施した。
事後は、中学校だけでなく近隣の小学生にも視察して学んだことを報告した。また、昨年１２月には、「長門みすゞ学園の防災教育を一層進めるための次の一手を考える」というテーマで中学生による熟議を行い、本市への提言を行った。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	４年目となる平成２７年度は、「各みすゞ学園でできる防災体制づくり」を中心に取り組みたい。そのために、平成２７年度から３年間を区切りとして、 南三陸町から中学生を本市に招き、本市の中学生との防災研修熟議を実施する。

〔事業名〕　防災教育事業

外部評価	・地域ぐるみの防災教育という観点から、市教委のリーダーシップに期待する。 ・南三陸町との交流の中で、子ども達の防災意識は少しずつでも高まっていると思う。学校施設が指定避難場所になっていることを考慮した防災訓練なども取り組んではどうか。 ・平成２７年度からの事業内容変更で防災意識が広がることを期待します。 ・「みすゞ学園でできる防災体制づくり」を通して将来の地域防災の担い手意識を高めていただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１５</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">子ども教育ゆめ基金海外派遣事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">知識、思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の育成</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">グローバル化する社会において、英語でのコミュニケーション能力が重要度を増していることに鑑み、基礎から一歩進んだ実践的な英語のコミュニケーション能力を養う場を提供するため、市内中学生を派遣する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>1,314,000 円
(1,297,600 円)</td><td>1,478,000 円
(1,304,780 円)</td><td colspan="2">1,479,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９８．８％</td><td>８８．３％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">■目標を上回る　　□目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">平成 26 年度：応募生徒　7 名
派遣人数 2 名（中学３年生２名）
○研修先　カナダ（バンクーバー）
○研修内容
・英語研修…夏休み中のフレーザー大学を研修場所として、国際クラスごとに分かれて英語のレッスンを行う。
・アクティビティ
…カヤック等を通して、世界各国から参加している友だちと交流を深める。
○日程　平成 26 年 7 月 20 日～8 月 5 日
参加した生徒２名による事後の評価は、派遣先、研修内容等最高評価をつけており、この機会を日頃の学習に活かしたいと考えている。</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	充実した研修であるが、一人あたりの経費が高額であるために、２名しか派遣することができない。人数を増やすために値段が安い東南アジア圏を中心とした短期の派遣先を選定することも選択肢の一つとして検討したい。 また、部活動があるため、参加しにくい生徒もいるのが実情であり、本事業の価値づけをしっかりと各校へ知らせながら、日程等についても検討していきたい。

〔 事 業 名 〕　子ども教育ゆめ基金海外派遣事業

外　部　評　価	・一部の学校に偏らないよう、校長・教職員の意識改革を求めたい。 ・できるだけ多くの学校の中学生がエントリーできるような工夫が必要。 ・海外派遣で自己のコミュニケーション能力や現在地を生徒自身が深く理解し、健全な将来を描くことができる価値ある事業です。派遣先や日程以外にも柔軟に検討していただき、少しでも多くの生徒に経験してほしい。 ・より多くの生徒に実践的英語コミュニケーション能力を培う場を提供するために派遣先を検討してほしい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１６</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">教育支援センター事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">規範意識を養い、豊かな心と健やかな体づくり</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">社会情勢が急激に変化する中で、本市においても、心に悩みを抱えている児童生徒や不登校の児童生徒が増加傾向にある。そこで、教育委員会内に設置された「教育支援センター」で教育相談員等が電話や来所、訪問による相談にできる限り対応するとともに、不登校児童生徒・保護者・教職員への教育支援活動を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>5,864,000 円
(5,664,731 円)</td><td>5,797,000 円
(5,658,736 円)</td><td colspan="2">5,622,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９６．６％</td><td>９７．６％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">「教育支援センター」の相談対応の年間延べ件数は 152 件（電話対応も含む）で、通室児童生徒の支援や保護者・教職員の相談対応にニーズが増していることがうかがえる。学校や関係機関との密接な連携により、不登校児童生徒が大幅に減少するとともに、学校に復帰できたり高校進学ができたりした生徒も増加している。このような実績から、「教育支援センター」への信頼は増している。

不登校児童生徒　平成２４年度　小学校１人、中学校２３人
平成２５年度　小学校２人、中学校２３人
平成２６年度　小学生３人、中学生１５人
不登校、ひきこもり状態から通室できるようになった生徒６名
・通室により学校への登校ができるようになった生徒５名
・通室により高校進学に至った生徒３名
（公立・私立高校２名、通信制高校１名）</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	学校と家庭・関係機関との連携を一層図り、個々のニーズに対応できる支援体制を構築していくことが求められる。 家庭環境の問題等、学校だけでは解決が難しいケースが少なくない。各校の教員はもとよりスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子育て支援課などとのネットワークの構築を進めていきたい。

〔 事 業 名 〕　教育支援センター事業

外　部　評　価	・中学生の不登校が減少しているところからも支援センターの役割は重要。今後も継続を。 ・不登校児童生徒の大幅な減少や学校復帰、高校進学と高い実績を上げ、信頼が増している今だからこそネットワークの構築を早く進めていただきたい。 ・着実に成果が上がっている事業である。今後とも学校や関係機関との連携を深め心に悩みを抱える子どもたちや保護者の力になっていただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１７</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">いじめ問題に係る教育相談事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">規範意識を養い、豊かな心と健やかな体づくり</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">深刻化しているいじめ問題や不登校問題等の解決に向け、あらゆる諸機関で解決に向けて努力しているが、本市においても、いじめ問題や不登校問題は現存している。そのため、市としてこれを重要課題として位置付け、教育相談員（臨床心理士）１名を配置して、児童生徒や保護者・教職員の相談にあたり、各事例の改善を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予算額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>1,035,764 円
(1,001,764 円)</td><td>840,000 円
(812,249 円)</td><td colspan="2">939,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９６．７％</td><td>９６．７％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">教育相談員が、子どもの心の問題や親の悩み等の解決にあたり、個々の対応で児童生徒及び保護者の心の安定が図られた事例も多い。特に、発達障害にかかる不登校に関する親の相談等、専門的な知見からの助言は効果的である。
以下に示す相談対応件数以外にも、「教育支援センター」との連携を図り、的確な助言により、学校の組織的な対応に貢献している。
また、肉親の突然の喪失、ＤＶなど緊急を要する事案にも早急な対応ができている。
・相談対応件数　26 件（平成 26 年度）
・学校訪問相談　0 回（平成 26 年度）
・教育支援センター会議　6 回（平成 26 年度）</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	人間関係づくりに困難さが見られる児童生徒が増え、発達障害に起因する事案や家庭環境により解決に時間を要す事案が増加傾向にある。継続的に個別対応の必要な児童生徒・保護者のニーズは増加傾向にあり、今後も教育相談員（臨床心理士）の配置が是非必要だと考える。学校の組織的な対応を促進していく意味からも、スクールソーシャルワーカーとの連携による支援体制を整えていきたい。

〔事業名〕　いじめ問題に係る教育相談事業

外部評価	・この度の事例から（岩手県の中学校）からわかるように、学校の教職員の意識、生徒のレベル等あらゆる可能性を踏まえて、総合的な支援体制づくりをしておきたい。 ・教育相談員（臨床心理士）は、いじめ対策において第3のチェック機関なると思う。教育相談員の配置を増やして、より子どもに身近な存在になるような工夫が必要ではないか。 ・臨床心理士の配置は必要であり、さらなる支援体制を整えていただきたい。 ・発達障害にかかる事案では、特に臨床心理士の専門的知見からの助言や対応が必要である。継続、拡大を望む。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１８</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">特別支援教育の充実事業</td></tr>
<tr><td>施　策　名</td><td colspan="4">特別なニーズに対応した教育の推進</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">センター校（萩総合支援学校）やサブセンター校（仙崎小学校）の地域コーディネーターが幼稚園・保育園や小・中学校を巡回訪問したり、発達検査や教育相談を実施したりするとともに、教職員を対象とした発達検査研修会や校内コーディネーター・特別支援補助教員を対象とした研修会を実施するなど、研修の充実を図る。また、市内年中児を対象として年２回長門市独自の「５歳児すこやか相談会」を実施し、教育委員会を中心としたよりきめ細かな体制を構築し、早期支援につなげていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>413,000 円
(345,100 円)</td><td>334,000 円
(212,282 円)</td><td colspan="2">334,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>８３．６％</td><td>６３．６％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価

（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">特別な支援を要する園児児童生徒が増加する中、地域コーディネーターによる訪問による支援は各園・各校にとって必要不可欠である。
《長門市幼保特別支援教育研修会》平成 26 年 5 月 29 日
・参加者数　24 名（幼保教員　17 名　関係機関　7 名）
《長門市特別支援教育補助教員研修会》　平成 26 年 8 月 1 日
・参加者数　31 人（小学校 22 名　中学校 9 名）
・内　容　情報交換、講話（地域コーディネーター）
《地域コーディネーターの活用》
○サブセンター校（仙崎小学校）のコーディネーターの現況
・訪問による相談件数（本人・保護者・教員）　83 件
・研修会講師（市教委主催研修会及び校内研修会）　8 件
○センター校（萩総合支援学校）のコーディネーターの現況
・発達検査及び相談（幼稚園・保育園・小学校・中学校）44 件
※25 年度（79 件）
５歳児すこやか相談会では、多くの相談希望があり、そのニーズに応じて助言や対応を行うことができた。配慮や支援が必要な児童の情報が小学校に共有されることで、児童も保護者も安心して小学校生活をスタートできた。
《第１回５歳児すこやか相談会》8/28　5 名　9/4　5 名　9/11　4 名
《第２回５歳児すこやか相談会》2/5　4 名　2/12　4 名
※　２６年度も希望者が多かったため第１回目は３回に分けて実施した。丁寧な対応と保護者の方の要望に応えていくために、１日に相談できる人数を６名以内に調整して対応している。
《保護者の声》
・就学に関して少し不安であったが、早期に専門の先生方に相談することができ安心することができた。このつながりを大切にしたい。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	５歳児すこやか相談会は、７年目を迎え定着している。保護者が気軽に相談できるように園からの声かけを丁寧に行ってもらい、必要に応じた適切な支援につながるようにしていきたい。また、地域コーディネーターを中心に個別の教育支援計画の作成を通して、相談支援の充実と相談後のフォローアップに一層努め、各小・中学校における校内コーディネーターを中心とした支援体制を強化していきたい。さらに、地域コーディネーターの育成をめざして、校内コーディネーターの研修も充実させていきたい。

〔事業名〕　特別支援教育の充実事業

外部評価	・大切な事業。特に５歳児すこやか相談会の定着は素晴らしい。 ・必要不可欠な事業であり、支援体制の強化をお願いしたい。 ・５歳児すこやか相談会では多くの相談希望者のニーズに丁寧な対応がなされており、保護者に安心感をもたせている。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>１９</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">就学指導委員会事業</td></tr>
<tr><td>施　策　名</td><td colspan="4">特別なニーズに対応した教育の推進</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">学校教育法施行令第１８条の２（保護者等の意見聴取）に基づき、長門市就学指導委員会を設置している。教育学、医学、心理学、その他の就学に関する専門的知識を有する者等、教育委員会が委嘱した１５人以内の委員をもって組織し、過半数以上の出席で年に５月、１１月、１月の３回実施する。専門家の意見をもとに、児童・生徒のよりよい就学につなげていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予算額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>199,000 円
(176,920 円)</td><td>199,000 円
(172,740 円)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>執行率</td><td>８８．９％</td><td>８６．８％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">平成２６年度は、就学指導委員会を３回開催している。配慮を要する児童生徒数が増加しているが、適正な就学に資するため専門的な立場から検討に時間をかけて慎重な審議をしていただいている。
特に次年度の就学に関わる第２回目の就学指導委員会はかなりの時間を要するが丁寧に協議いただいている。３学期にも新規に次年度の就学にかかわる児童・生徒の協議を重ねており、３回は確実に必要となる。

《要検討児童生徒数》　※平成２５年度　６４人
平成２６年度　６９人
（第１回　5/15　3 名）　（第２回　11/13　50 名）
（第３回　1/15　16 名）

学校や保護者の急な要望にも対応することで、児童・生徒にとって適正な就学につながっている。</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	今後も、一人ひとりの障害の種類や程度等に適した教育の場について慎重に審議するためには、教育学、医学、心理学等に関して学識経験を有する者で委員会を組織することが必要である。 また、平成２７年度から萩総合支援学校長門分教室が開設されることや関係機関との連携がますます重要になることから、委員の構成について再考する必要がある。 インクルーシブ教育の考えが広がる中、平成２７年度からは「教育支援委員会」に改名する。

〔事業名〕　　就学指導委員会事業

外 部 評 価	・要検討児童生徒数は増加傾向なので継続実施が必要。 ・慎重な審議と丁寧な協議が行われていることがうかがえる。状況に応じた委員会の組織を早めにお願いしたい。 ・配慮を要する児童生徒数が増加する中、今後とも慎重かつ丁寧な協議を行っていただきたい。そのためにも１１月の委員会は２回に分ける必要はないだろうか。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２０</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">学校教育課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">夏季教育研修講座事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">特別なニーズに対応した教育の推進</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">「生きる力」、「心の教育」、「特色ある学校づくり」など、教育の質的転換が求められている今日、各界で活躍されている先達の生き方や考え方、実践などに直接ふれる機会をもつことができるようにする。夏季休業中に、講師を招聘して４つ程度の研修講座を設け、教職員の研修の場とする。その年の本市の「教育的な課題」について示唆していただける講座にすることにより、早期の課題解決に向けての取組になっている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成 25 年度</td><td>平成 26 年度</td><td colspan="2">平成 27 年度（当初）</td></tr>
<tr><td>142,000 円
(64,364 円)</td><td>95,000 円
(77,678 円)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>４５．３％</td><td>８１．８％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">２日間の講座選択という日程で設定した。教職員のアンケート結果では、タイムリーな内容であり、実践に役立ち、充実した講座であったと全体評価も高かった。また、全講座において、一般の方や保護者も参加できるようにし、教養を広めることができる講座とした。
・「今を生きる子ども達へ伝えたい」
講師　熊丸　みつ子　子育てアドバイザー　　50 名参加
・「SSW の活動を通して」
講師　岩金　俊充　やまぐち総合支援センター社会福祉士　71 名参加
・「インターネットに潜むサイバー犯罪」
講師　三浦　展裕　山口県警察本部サイバー犯罪対策室　　53 名参加
・「通常学級における特別支援教育のあり方について」
講師　西川　崇　長崎大学大学院　教育研究科　　110 名参加
《参加者の声》現在の子どもたちの実態にあった内容で充実している。</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	本市学校教育の目指す姿や、教育の今日的課題、教職員のニーズに関連した講座内容にしてきた。今後も、長門市教育委員会が重点的に取り組んでいるコミュニティ・スクールや特別支援教育に関する内容を重視し、教職員が興味をもって参加できる講座の内容とする。

〔 事 業 名 〕　夏季教育研修講座事業

外　部　評　価	・教職員が積極的に参加したくなる内容での継続を望む。 ・講座によって参加人数に差があるが、引き続き教育委員会が重点的に取り組むことに合わせて講座を設けていただきたい。 ・今後とも市の教育的課題や教職員のニーズに即した講座を提供していただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２１</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">成人式開催事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">市として新成人のお祝いをする。
【期　日】平成２７年１月３日（土）
【会　場】ルネッサながと
【対象者】375 人（H6.4.2 生～H7.4.1 生）・出席者 290 人（出席率 77.3%）
【内　容】式典、アトラクション、記念撮影、メッセージボード設置
図書カード（記念品）
【目　標】社会人としての自覚を促すとともに長門市に愛着を持ってもらう。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>1,099,000 円
(993,387 円)</td><td>1,111,000 円
(1,031,766 円)</td><td colspan="2">1,112,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９０．４％</td><td>９２．９％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">実施後のアンケートは次のとおり
各項目を点数により評価（満点 100 点）
式典について 74 点　　お楽しみ抽選会 74 点
ミニライブについて 75 点　　ロビーでの催し 73 点
オールハート（長門市、山口市、防府市在住メンバーによるビッグバンド）の皆さんのミニライブ及び市内事業所より提供していただいた景品による抽選会の実施、ロビーに恩師からのメッセージボードを設置したところ、7 割を超える評価を得た。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	お楽しみ抽選会において、より多くの地元企業から商品を提供いただき（現在７社）、新成人に地元企業のＰＲを行いたい。 また、同時に行った成人式の開催日時及び午後開催（現行午前開催）のアンケートについては、現状でよいとの意見であった。 アンケート結果 （1 月 3 日開催ついて、「よい」160　「遅い」1　「早い」29 午後開催について、「良いと思う」48　「遅い」114　「早い」5）

〔事業名〕　成人式開催事業

外部評価	・選挙権は 18 歳からと早まるが、一人前の大人としての自覚と責任をもたせるとともに大いに祝意を表したい。 ・「成人式は地元で」と思わせる重要な事業である。ロビーのメッセージボードも高評価。 ・多くの新成人に対して長門市をアピールできる事業なので企画内容を再考していただきたい。 ・アンケート結果から企画に対する新成人の満足度の高さがうかがえる。社会人としての自覚や社会貢献への意欲を育む企画にも期待したい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２２</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">公民館指定管理事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">地域住民に公民館の管理・運営を委託する。
【管理団体】俵山地区発展促進協議会
【委託期間】Ｈ２４．４．１～Ｈ２７．３．３１
【目　　的】地域住民による公民館を中心とした社会教育の充実と地域の活性化</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>10,501,000 円
（　10,501,000 円）</td><td>11,256,000 円
（　11,256,000 円）</td><td colspan="2">11,577,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>１００．０％</td><td>１００．０％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">俵山公民館における利用者数は、平成２６年度は６千人を超え、学習拠点としての役割やＮＰＯ法人ゆうゆうグリーンと連携した地域づくり事業により、地域の拠点として重要な役割を担っている。
また、俵山地区以外の公民館関係者（職員・公民館企画運営委員等）による視察等を受け入れ、地域づくり活動を展開していく中での公民館のあり方、関わり方についての情報交換を行うことができた。</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	平成２６年度末で委託期間が満了となったが、俵山公民館が良好に管理・運営されていることから、引き続き俵山地区発展促進協議会に委託する。（委託期間：平成２７年４月１日～平成３０年３月３１日） 地域課題の解決に繋がる公民館活動を展開する上で、リーダーやコーディネーターの人材育成が必要であるため、引き続き各種研修会への参加や開催に取り組むよう指導する。 俵山地区以外については、情報収集及び地域の状況の把握を行い、指定管理制度導入に向けて取り組んでいく。

〔事業名〕　公民館指定管理事業

外部評価	・俵山地区に続く地区がでてくるのか、見守っていきたい。 ・俵山地区の取り組みを学べる機会があるとよい。 ・公民館の指定管理者制度導入は、地域の状況に大きな違いがあるので慎重に取り組んでいただきたい。 ・委託期間の延長を受けた俵山公民館の管理運営に学ぶことを明確にし、リーダーやコーディネーターの人材育成に努めていただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２３</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">図書館の充実事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">・図書等資料の充実　　・子どもの読書活動推進
・音楽、映画、講演会等の各種事業の実施
【目　標】図書館の利用促進と図書館機能の向上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>8,290,000 円
(8,271,256 円)</td><td>8,794,000 円
(8,763,773 円)</td><td colspan="2">8,992,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９９．８％</td><td>９９．７％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">○図書等資料の収集は、司書の選書、利用者からのリクエストに応じた資料の収集および他館からの借受けなどを迅速かつ的確に行った。
・貸出数　205,856 点（個人・団体等全館計）
「読み聞かせによる子育て支援事業」による全 5 回の講演会を実施。参加者は延べ 213 人となったが、世代を超えて読み聞かせの重要性を周知できた。
○ボランティアによる読み聞かせ出前サービスは出向くことによる図書館利用の促進に寄与している。
派遣先 19（21）カ所、出前回数 227（235）回、派遣人員 276（275）
参加者数 3,993（3,963）人　　※( )内は前年度数値
○以下イベント及びサービス等により、人員・予算とも限られた枠内において、魅力ある図書館の創出を効果的に行った。
・図書館コンサート２回　・映画上映 19 作品　・図書館まつり 1 回
・ＢＧＭを流す・無線ＬＡＮ利用サービス・雑誌スポンサー制度導入</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	図書館サービスに対する市民ニーズの多様化とともに、職員の更なる意識改革、資質向上等が求められる。 人口減少に伴い利用者が減少傾向にある中、図書館に何が求められているのかを検証し、事業の継続又は見直し等を検討するとともに、図書等資料やレファレンスサービスを充実させ、居心地の良い施設空間となるよう環境整備に努める。 また、平成 27 年度においても、「読み聞かせや家読による子育て活動事業」として講演会を開催することとしており、子どもの活字離れや家族間の絆の弱さが嘆かれる中、事業を継続することで「読み聞かせや家読」を強く推奨することができ、さらには利用者の拡大、図書館の活動を広く市民に認識してもらうこと等が期待できる。

〔事業名〕　　図書館の充実事業

外部評価	・読み聞かせは、子どものためだけではなく、大人のための読み聞かせやおはなし、語りの場があるといいなと思います。 ・図書館の取り組みが浸透していないように思う。広報に工夫が必要。 ・図書館の充実は利用者の増加に比例する。講演会やイベントも効果的な事業であるが、図書に囲まれた清潔で落ち着いたスペースでの読書や調べ物は心が豊かになる。利用者側に立ったさらなる環境整備を望む。 ・読み聞かせによる子育て支援事業は大変充実したものだった。より多くの参加者を募るＰＲ活動を望む。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２４</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">婦人団体活動支援事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">長門市連合婦人会の活動を財政的及び事務的に補助・支援する。女性の立場からの様々な行政課題の解決に向けた活動を側面から支援する。

【目　標】地域婦人会の連絡提携と女性の教養・文化・体育の向上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>716,000 円
(716,000 円)</td><td>716,000 円
(716,000 円)</td><td colspan="2">716,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>１００.０％</td><td>１００.０％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">婦人会は、市の諮問機関や実行委員会など多くの任意団体に構成員として求められ、女性の視点や立場を代表する市の主要団体として位置づけられており、市の社会教育関係団体の顔として、生涯学習の推進をはじめ、行政計画の策定など様々な場面で大きな貢献を果たされている。

長門市連合婦人会補助金　716,000 円
平成２６年度会員数　490 人（油谷 243 人、仙崎 228 人、俵山 19 人）
会員ひとりの年会費　油谷 400 円、仙崎 500 円、俵山 1,000 円</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	婦人会組織が全地区にないこと、高齢化により年々会員数が減少していることは大きな課題であるが、市の主要団体として貢献されているので、今後も活動を支援していきたい。

〔事業名〕　婦人団体活動支援事業

外部評価	・マンネリにならないようにお願いしたい。 ・楽しく活動され、地域に貢献されている方も多いので支援は必要だと思うが、若い層を増やす努力を望む。 ・女性の視点や立場を代表するという婦人会の位置づけを再考する時期にきているように思う。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２５</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">青少年健全育成団体支援事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">青少年健全育成団体への活動費及び活動の補助・支援や事務業務の支援を行う。各団体の運営ついては自主性を持って行なわれているが、専門的な問題や行政課題に関する問題については市が側面から支援するとともに、連携して取り組む。

【目　標】青少年健全育成の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>638,000 円
(638,000 円)</td><td>638,000 円
(638,000 円)</td><td colspan="2">838,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>１００.０％</td><td>１００.０％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価

（取組状況
及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">子ども会育成連絡協議会、青少年育成市民会議の事務については嘱託の社会教育指導員を配置し、支援していることで、団体の健全な運営が確保できている。
また、団体事務局を教育委員会生涯学習スポーツ振興課に置くことで市と連携し円滑な事務執行ができている。

子ども会育成連絡協議会補助金　　１７６,０００円
青少年育成市民会議補助金　　２６１,０００円
長門市ＰＴＡ連合会補助金　　１５１,０００円
ガールスカウト活動費補助金　　５０,０００円</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	市の側面的な支援と連携を推進することで、青少年育成団体の活動が円滑に実施されるよう取り組む。 また、平成２７年度に山口県ＰＴＡ研修大会が長門市で開催されることから、長門市ＰＴＡ連合会に開催費の補助等を行い支援する。

〔 事 業 名 〕　青少年健全育成団体支援事業

外　部　評　価	・各地区で行われている青少年育成市民会議に保護者の参加が少ないように思う。参加を促す対策が必要。 ・健全な運営を保つために適正な支援を引き続きお願いしたい。 ・青少年数減少の中、新たな課題を抱えながら地道な取組みが進められている。今後とも専門的な知見や財政面による支援を継続してほしい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２６</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">人権教育講座開設事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">市民を対象に人権教育を推進するための講座を開設する。
H26. 7　第１回人権教育セミナー
長門市中央公民館　参加者　約 74 人
H26. 8　第２回人権教育セミナー
三隅公民館　参加者　約 86 人
H26.11　第３回人権教育セミナー
日置農村環境改善センター　参加者　約 182 人

【目　標】人権意識の向上や人権についての啓発・啓蒙</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>353,000 円
(165,529 円)</td><td>339,000 円
(274,479 円)</td><td colspan="2">345,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>４６．９％</td><td>８１．０％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">各講座とも人権教育推進委員主導で講座が開かれており、実施後のアンケートによると「とてもよい」「よい」が約 90%を超えており、市民の人権意識の向上や啓発･啓蒙につながったと思われる。(第 1 回 100%、第 2 回 96%、第３回 89%)</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	各講座とも人権教育推進委員主導で講座が開かれているが、より多くの方に参加していただけるよう、他課とも連携して取り組んでいきたい。 また、ほっちゃテレビを活用した啓発活動や番組の制作については、より分かりやすく親しみやすい啓発となるよう今後も継続していく。

〔 事 業 名 〕　人権教育講座開設事業

外　部　評　価	・継続してお願いしたい。 ・人権学習は継続が必要な事業。個別の人権意識が問われる内容での継続を望む。 ・より多くの方が参加していただけるように取り組んでいただきたい。 ・人権教育推進委員主導で講座が開かれていてよい。ＰＴＡなどの各種団体の研修とのタイアップも考えられる。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２７</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">人権教育啓発推進事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">人権問題についての認識を深めるため、市民を対象に講演会を開催する。
【期　日】平成 26 年 12 月 7 日（日）
【会　場】ラポールゆや　大ホール
【対象者】一般市民　約 260 人
【内　容】「生きている」幸せを感じて
～奇跡の生命と共に生きた８年８ヶ月～
講師　元熊本市人権教育講師　道志真弓氏
【目　標】人権意識の向上や人権についての啓発・啓蒙</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>413,000 円
(235,928 円)</td><td>390,000 円
(352,936 円)</td><td colspan="2">377,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>５７．１％</td><td>９０．５％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">実施後のアンケート（回収率 44.6%）によると、「とても満足」48.3%、「満足」37.9%と高い評価をいただいた。（計 86.2%）
人権教育講座開設事業と同様に、人権教育推進委員主導で講演会が開かれており、充実した内容となっている。</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	講演会の内容はアンケート結果にあるとおり高い評価をいただいている。より多くの方に参加していただけるよう、人権週間に合わせた 12 月開催とした。今後もフェスティバルの認知度が上がるよう周知に努めたい。

〔 事 業 名 〕　人権教育啓発推進事業

外　部　評　価	・継続してお願いしたい。 ・人権学習は継続こそ大切。学び続けることで意識の向上を目指したいものです。 ・人権学習は継続が必要な事業。個別の人権意識が問われる内容での継続を望む。 ・人権週間に合わせて１２月開催であったが、年末は参加が難しい方も多いのではないだろうか。 ・講師の選定に熟慮され参加者の満足度が高い。周知に力を入れて新たな参加者の増加を望む。

番　　号	２８	主　　管　　課	生涯学習スポーツ振興課
事　業　名	我がまちのスポーツ推進事業		
施策の課題	いつでも、どこでも学べる機会の充実		
区　　分	■継続　　□新規　　□完了		
事業の概要及び目標	山口国体の開催競技を「我がまちスポーツ」として地域に根付かせ、推進を図るため、スポーツ関係団体等と連携しながら、「我がまちスポーツ」の定着・育成に向けた取組を行う。(平成24年度新規事業) 【目　標】スポーツの推進と地域づくりや地域の活性化に繋げる。		

予算額（決算額）	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度（当初）
	11,050,000円 (10,637,320円)	11,080,000円 (11,017,380円)	5,080,000円 ※一部繰り越し
執　行　率	９６．３％	９９．４％	

評価（取組状況及び成果等）

□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る

我がまちスポーツのラグビーの普及育成では、よりレベルの高い指導者の確保や継続した指導体制を構築することができた。また、中学校等の協力により、体育授業でラグビーを取り入れ、平日の放課後に中学生クラブチームを運営するモデル事業も実施した。

その他下表のとおり、本事業により市内外から多数の参加者があった。

補助団体名等	事　業　内　容	参加者数	決算額
長門市ラグビー協会	タグラグビー祭	(延べ人数)	(円)
	トップアスリートラグビー教室		
	トップリーグ交流戦		
	タグラグビー教室	9,750	5,220,000
	中学体育指導（ラグビー）		
	審判員等養成研修会		
	放課後ラグビープログラム		
山口県ラグビー協会	全国大会県予選運営費補助	2,000	1,080,000
長門市空手道連盟	西日本空手道親睦大会	1,000	300,000
シーカヤック実行委員会	シーカヤック体験試乗会	330	400,000
	シーカヤックフェスティバル		
観光コンベンション協会	スポーツ合宿奨励金	2,643	3,700,000
世界大会等招致活動	フォーラム等参加旅費	5	317,380
合　　計		15,728	11,017,380

課　題　と 今後の取組	県が「我がまちスポーツ推進事業」の実施期間を平成２４年度から３ヶ年としているところであり、平成２６年度が最終年となった。今後は県の後継事業である「地域スポーツ人口拡大推進事業」により「する・観る・支える」視点からスポーツ人口の拡大を図り、ラグビーを中心とした国体開催競技等の普及を推進していく。

〔事業名〕　我がまちのスポーツ推進事業

外部評価	・一定の成果が認められた事業であったが満足できるものではない。後継事業に期待する。 ・ラグビーの普及、育成に向けた指導体制の構築等「わがまちスポーツ」の定着、育成が図られた。今後とも地域スポーツ人口拡大に向けた取組みを願う。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>２９</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">学校体育施設開放事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">地域住民のスポーツ活動の場として学校体育施設を開放し利用してもらうため、施設の改修や競技用具を整備する。
【目　標】生涯スポーツの振興を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>406,000 円
(205,419 円)</td><td>317,000 円
(263,591 円)</td><td colspan="2">317,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>５０．６％</td><td>８３．２％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">地域住民が気軽にスポーツに親しむため、市内の全小・中学校体育施設を開放しており、事業としての必要性は高い。
利用団体の受付窓口となる公民館と学校の連携を密にし、利用調整会議等で利用団体との協議を行いながら、利用者が必要とする施設の改修や競技用具の整備に努めるとともに、施設が円滑に利用できるように取り組んでいる。

＜決算内訳＞
報償費（解放事業管理等謝礼）48,000 円
消耗品（競技消耗品・水銀灯・ワックス・モップ等）215,591 円</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	今後も、地域住民が気軽にスポーツに親しめる場として、学校体育施設開放事業を継続していく。 また、地域住民が利用しやすいよう、利用団体のニーズや利用方法、利用時間等、学校体育施設の利用に関する情報を積極的に収集・把握し学校と連携し対応するとともに、利用団体や市民に情報を提供していく。

〔事業名〕　学校体育施設開放事業

外部評価	・利用者は多く、継続してほしい事業。 ・生涯スポーツの振興を図るためには、なくてはならない事業である。事故の無いよう引き続き改修整備にも努めていただきたい。 ・地域住民が気軽にスポーツに親しめるよう利便性を高めるとともに管理面については学校と協議し連携して対応されたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>３０</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">スポーツ教室・健康医学講習会開催事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">各種スポーツ教室の開催
【目　標】市民が健康で豊かな生活を送るための機会を提供する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>468,000 円
(229,000 円)</td><td>563,000 円
(438,108 円)</td><td colspan="2">460,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>４８．９％</td><td>７７．８％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">市民が各種スポーツの基本を学び、スポーツに親しむ機会が増すことにより、健康の維持増進を図っている。
平成 23 年度から取り組んでいるチャレンジ・ザ・ゲームの普及・啓発を図るため、スポーツ推進委員を中心に、子ども会やＰＴＡの集会、スポーツ少年団事業などの各種イベントへ出向き、競技の講習や記録会を行ない、16 種目中１種目で全国１位を記録した。
これまでに普及しているスポーツの推進だけでなく、運動が苦手な人や、体を動かすことが嫌いな人でも楽しめる、ニュースポーツの開発に取り組んだ。また、今年度は、広報啓発活動に力を入れるために。スポーツ推進委員のためのフェイスブック研修会を開催するとともに、スポーツ推進委員のフェイスブックページを開設した。</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	今後も、市民がスポーツに親しむ機会を増やすため、チャレンジ・ザ・ゲームの教室を開催していく。 研修会や出前講座を行い随時スポーツ推進委員のホームページを更新していくとともに、独自に開発したニュースポーツのルールを作成し、多くの市民に親しんでもらう。 また、これまで萩・阿武・長門の２市１町の交流会は行ってきたが、それ以外の市との交流を深めそれぞれの他市の取組を学び、より市民がスポーツに親しめる取組につなげていきたい。

〔 事 業 名 〕　スポーツ教室・健康医学講習会開催事業

外　部　評　価	・何の種目にせよ、全国一位は素晴らしい。誰もが取り組めるニュースポーツを推進してきた成果である。 ・スポーツ推進委員の皆さんの努力には頭が下がります。広報啓発活動に力を入れることで多くの市民がスポーツに親しむ機会が増えることを期待しています。 ・健康の維持増進のために意義深い事業である。フェイスブックページの開設など広報啓発活動にも力が注がれている。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>３１</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">長門市体育協会補助金事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">いつでも、どこでも学べる機会の充実</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">本市における中核的なスポーツ団体組織である長門市体育協会の活動及び運営について支援をする。
【目　標】加盟団体の育成強化と市民の生涯スポーツ活動の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>12,524,000 円
(11,573,352 円)</td><td>12,524,000 円
(11,716,258 円)</td><td colspan="2">13,797,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９２．４％</td><td>９３．６％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">長門市体育協会は、市内のスポーツ競技団体が加盟する中核的なスポーツ団体であり、指導者育成研修会の開催をはじめ加盟団体の指導・育成、協会の自主事業として市民ハイキング、グラウンドゴルフ大会、市民スポーツフェスティバル、市民駅伝大会等の各種大会を開催し、市民のスポーツ振興、体力・競技力の向上を図っている。

＜決算内訳＞
支　出　事務局人件費　7,116,203 円
事務費　1,682,921 円
事業費等　3,726,434 円
計　12,525,558 円－①
収　入　大会参加負担金等　809,300 円－②
差　引（①－②）　11,716,258 円　を補助</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	今後も、市の中核的なスポーツ団体として、市民が多く参加できるスポーツ大会等の開催や、加盟競技団体の育成・指導、競技スポーツの強化を図る各種事業が円滑に行えるよう支援を継続していく。 平成 27 年度より農業者トレーニングセンターの夜間窓口業務を開始したことにより、各種大会の申し込み受付を夜間も行えるなどサービスが向上した。

〔 事 業 名 〕　長門市体育協会補助金事業

外　部　評　価	・マンネリにならぬよう点検、見直しもお願いしたい。 ・内容が市民のニーズと合っているか点検しながら継続してほしい。 ・長門市体育協会が開催する各種大会は、市民の目標や目的になっている。夜間窓口業務のサービスはありがたく、利用者も増えたのではないだろうか。細かな点に注意しながら新しいことにもチャレンジしていただきたい。 ・個々の事業について常に点検、見直しをしながら進めていただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>３２</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">放課後子ども教室推進事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">学校・家庭・地域の連携を強化し、学習成果を生かす協働の推進</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要
及び目標</td><td colspan="4">放課後の子どもの見守り、健全育成。
【対　象】　小学１年生～６年生
【実施校】　俵山小学校・神田小学校・向陽小学校・向津具小学校
【目　標】　各放課後子ども教室の支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予　算　額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>5,737,000 円
(5,409,540 円)
※俵山・神田・向陽・向津具</td><td>6,086,000 円
(5,745,775 円)
※俵山・神田・向陽・向津具</td><td colspan="2">6,452,000 円
※俵山・神田・向陽・向津具・通</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９４．３％</td><td>９４．４％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">市内の小規模校を対象とした「放課後の子どもの居場所づくり」として進めている。
登録率は、俵山小 57.1%(20/35)、神田小 60.9%(14/23)、向陽小 77.4%(41/53)、向津具小 47.1%(16/34)となっており、多くの児童が放課後の居場所として子ども教室を活用している。
また、各子ども教室にコーディネーター、学習アドバイザー、安全管理員を置き、研修を実施することで、安全安心面や教育面においてもより充実したものになるよう取り組んでいる。</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	未実施校の通小については、週 2 日（火・金）の実施ではあるが平成 27 年度より放課後子ども教室を開設することとなった。これにより、市内各小学校に、児童クラブまたは放課後子ども教室が開設されることとなった。 今後も、学習アドバイザーや安全管理員の確保と人材育成について支援していく。

〔 事 業 名 〕　放課後子ども教室推進事業

外　部　評　価	・通小の実施が始まったことは評価できる。 ・放課後子ども教室、ボランティアスタッフの人材育成を引き続き計画的に行ってほしい。 ・今後ますますニーズが増える事業だと認識。小規模校だけに留まらず、中大規模校にも拡げることが可能か検討してほしい。 ・安全第一で充実したものになるよう期待する。 ・放課後の子どもの居場所として定着してきている。学校、保護者との連携を強め、安全・安心な教室運営のための支援を継続していただきたい。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>３３</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">文化財の保護・活用事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">次世代への地域文化の継承</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">ながと歴史民俗資料室及び日置歴史民俗資料館において、本市の埋蔵文化財や民俗資料、歴史資料等を常設展示している。
また、ながと歴史民俗資料室においては、企画展を年 2 回、山口県埋蔵文化財センターの巡回展を毎年 1 回実施し、あわせて長門市文化財保護協力員の研修会を開催している。
【目標】地域文化財の保存・管理と地域文化の伝承</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予算額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>1,420,000 円
(1,416,240 円)</td><td>1,420,000 円
(1,417,680 円)</td><td colspan="2">1,420,000 円</td></tr>
<tr><td>執　行　率</td><td>９９．７％</td><td>９９．８％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">ながと歴史民俗資料室は、昔の農具等の常設展示及び企画展を行っている。常設展示では深川小の 3 年生が歴史授業の中で訪問し、昔の農業について展示品に触れながら学習している。また昨年度は展示スペースを深川小 6 年 1 組の総合学習の発表会場として 2 月 7 日（日）に貸出し 150 人ほどの入場者があった。企画展では、児玉花外展を 7・8 月、村上賢一写真展を 11・12 月の 2 回実施（会期中土日開館）し、合わせて 360 人以上の来館者があった。
入館者：平成 25 年度 912 人　平成 26 年度 996 人
また、日置歴史民俗資料館は、日頃改善センター職員により見学者への対応を行っており、年間約 40 名の入館者がある。展示については、旧日置町時代の民俗資料や歴史資料が常設展示してあり、ここでも主要な入館者は日置小学校児童である。今年度は、日置小の歴史授業で活用するため収蔵品を貸し出した。</td></tr>
</table>

課　題　と 今 後 の 取 組	歴史民俗資料の展示のために、旧 1 市 3 町で保存収蔵していた資料を専門的に整理・分類・展示する体制（学芸員等の専門職員の配置を含む）が必要である。 ながと歴史民俗資料室では今年度も企画展を 2 つと県巡回展を予定している。また、市内小中学校校長会で文化財保護室所管の 4 施設（ながと歴史民俗資料室、日置歴史民俗資料館、くじら資料館、村田清風記念館）と今年度企画展についての紹介文書を配布し、活用を案内した。

〔 事 業 名 〕　文化財の保護・活用事業

外　部　評　価	・折角の継続事業なので歴史民俗資料室、また日置歴史民俗資料館の認知度アップを図ってほしい。 ・取り組むべき課題への進捗が見られない。早急に取り組む必要があるのではなかろうか。 ・企画展や巡回展の実施は歴史民俗資料室の認知度を上げるうえで効果的と思われる。

<table>
<tr><td>番　　号</td><td>３４</td><td>主　管　課</td><td colspan="2">生涯学習スポーツ振興課</td></tr>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="4">地域文化の継承事業</td></tr>
<tr><td>施策の課題</td><td colspan="4">次世代への地域文化の継承</td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="4">■継続　　□新規　　□完了</td></tr>
<tr><td>事業の概要及び目標</td><td colspan="4">鯨及び漁村文化に係る民俗資料の保存及び展示を行うくじら資料館の運営、維持管理を行う。平成 27 年度は施設長寿命化等のため外壁の修繕工事を予定している。また、郷土の先賢である村田清風及び周布政之助の遺品と資料や、歴史民俗資料を展示する村田清風記念館の運営、維持管理を行う。
【目標】くじら文化や村田清風の業績に対する理解を広げていくこと、地域文化財の保存・管理と地域文化の伝承。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予算額
（決算額）</td><td>平成２５年度</td><td>平成２６年度</td><td colspan="2">平成２７年度（当初）</td></tr>
<tr><td>13,869,000 円
(13,451,167 円)</td><td>22,028,787 円
(21,554,510 円)</td><td colspan="2">23,607,000 円</td></tr>
<tr><td>執行率</td><td>９７．０％</td><td>９７．８％</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価
（取組状況及び成果等）</td><td colspan="4">□目標を上回る　　■目標どおり　　□目標を下回る</td></tr>
<tr><td colspan="4">くじら資料館については、国指定有形民俗文化財である「長門の捕鯨用具」を保存・展示しており、要望があれば来館者に対する説明も行っている。
平成 25 年度入館者数：10,005 人　平成 26 年度入館者数：9,123 人
村田清風記念館については平成 26 年度、空調設備改修工事を完了した。また、平成 27 年 1 月 30 日から翌年 1 月 10 日まで NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」に関連した企画展「楫取素彦と妻・寿」を開催しており、期間中は無休で開館している。大河ドラマの効果もあり、平成 27 年 5 月末の入館者を比較すると大幅（約 3 倍）に増加している。
平成 25 年度入館者数：3,528 人　平成 26 年度入館者数：5,227 人
その他、村田清風競書大会や古文書講座を開催し村田清風の偉業を周知・啓蒙する自主事業も実施している。競書大会参加者：平成 25 年度 78 人　平成 26 年度 65 人　古文書講座参加者：平成 25 年度 26 人　平成 26 年度 25 人</td></tr>
</table>

課　題　と 今後の取組	両文化施設の課題として、企画展の実施や展示物の調査研究など学芸員等の専門的な関わりが必要と感じている。それにより来館者増も図れるのではないかと考える。また、所蔵・展示している資料等の保存・保全のため定期的に燻蒸する必要がある。 村田清風記念館は、平成 27 年度の企画展終了後、平成 30 年度まで県の幕末維新 150 年（2018 年）祭にあわせた新たな企画展が開催できるよう、平成 28 年度、29 年度、30 年度の取り組みを考える必要がある。

〔事業名〕　地域文化の継承事業

外部評価	・萩市に劣ることのない長門の歴史・文化について、意図的・企画的・継続的に市内小中学校に学ばせたい。近隣の市町の学生も、入館無料にしてよいのではないか。 ・村田清風記念館での企画展は高評価。観光客増加へ貢献したと思われる。 ・取り組むべき課題への進捗が見られない。早急に取り組む必要があるのではなかろうか。 ・幕末維新１５０年祭に向けて萩市・山口市の関係機関と連携して村田清風記念館の存在をアピールされることを期待する。